

○ 教育遺産世界遺産登録推進協議会設立総会・第1回協議会会議録

1 日時 平成24年11月18日(水) 午前10時00分から午前10時40分

2 場所 水戸芸術館会議場

3 出席者

水戸市長 高橋 靖	足利市長 大豆生田 実	日田市長 原田 啓介
水戸市教育委員会教育長 本多 清峰	足利市教育委員会教育長 高木 弘志	日田市教育委員会教育長 合原 多賀雄
水戸商工会議所会頭 和田 祐之介	足利市商工会議所会頭 早川 慶治郎	日田市商工会議所会頭 高山 英彦
水戸市世界遺産登録検討 専門委員 日高 健一郎 青木 美智男 五味 文彦	足利市世界遺産検討会議 メンバー 入江 宏 橋本 昭彦 池田 雅則	日田市世界遺産登録検討 専門委員会 後藤 宗俊 吾妻 重二
茨城県教育庁文化課長 伊藤 哲	栃木県教育委員会事務局 文化課長 水野 恵司	大分県教育庁文化課参事 佐藤 晃洋

4 議題

- (1) 教育遺産世界遺産登録推進協議会規約について
- (2) 平成24年度教育遺産世界遺産登録推進協議会事業計画・予算について
- (3) その他

5 会議の内容

挨拶・紹介

○司会 定刻となりましたので、只今から、教育遺産世界遺産登録推進協議会設立総会・第1回協議会を開会いたします。開会に当たりまして、開催市を代表し、水戸市の高橋 靖市長からごあいさつを申し上げます。高橋市長、よろしく願いいたします。

○高橋水戸市長 みなさんおはようございます。御紹介いただきました水戸市長の高橋靖でございます。開催地ということで先に御挨拶させていただきます。足利市の大豆生田市長さん、日田市の原田市長さん

ん、三市の商工会議所の会頭さん、並びに専門家の先生方、本日は、大変お忙しいところ、御出席を賜り、誠にありがとうございます。教育遺産 世界遺産登録 推進協議会 設立総会・第1回協議会の開会に当たりまして、一言御挨拶させていただきたいと思ひます。

御案内のとおり、本市の話で申し訳ないのですが、水戸藩第9代藩主・徳川斉昭公は、幕末の国難に直面した時代にありまして、教育立国による人材育成を急務と考えまして、この水戸の地に一大教育施設いわゆる弘道館を創設致しました。弘道館は、当時、総合大学的な性格を備えた藩校と致しまして、全国にその名を馳せ、「学問の府・水戸」のシンボルともいふべき活況を呈したところでございます。

こうした歴史的な経緯を持つ本市におきましては、これまでの世界遺産には例のない「教育遺産」というテーマに着眼し、広域連携による取組に向けまして、私は、昨年、足利学校、咸宜園という、いずれも日本を代表する教育遺産を持つ、足利市の大豆生田市長、日田市の原田市長と懇談させていただいたところでございます。

両市長さんからは、共同連携に向け、大変ありがたいお言葉をいただいているところでありまして、感謝しているところでございます。以来、3市では、各分野の第一線で御活躍されている先生方の御協力をいただきながら、合同学術会議を重ねてまいったところでございます。

この都道府県域を大きく越えて、共通のテーマのもと、点と点であった文化遺産を線で結んでいくという広域連携は、まさに国内初の取組であると認識しております。

こうした状況の中、本年は、世界遺産条約採択40周年という節目の年を迎えます。この記念すべき年に、連携協力体制を更に充実させるため、産・学・官の各分野で、御活躍されている皆様方の御参画をいただき、3市による協議会を設立することといたしました。

今後、協議会の中で、国際的な視野から、教育遺産に関する学術面での十分な検証を行うこととなりますが、普及啓発面でも一体的な事業展開を図っていくことは、郷土の誇るべき教育遺産の価値を更に磨き上げ、教育の推進や観光の振興、更には、まちのイメージアップ・PRにも繋がっていくことにもなり、多方面で大きな意義があると認識しております。

したがいまして、是非とも、皆様方と力をあわせ、また、いろいろな課題を乗り越え、解決しながら、そして、市民の皆様にも応援をいただきながら、世界にアピールできるような価値を創出し、暫定リスト記載へと飛躍していけるように、精一杯頑張っていきたいと考えております。どうか皆様方の御協力をお願い申し上げ、私からの挨拶とさせていただきます。

○司会 高橋市長、ありがとうございました。

続きまして、本日は、栃木県足利市の大豆生田 実市長、大分県日田市の原田 啓介市長の御出席をいただいておりますので、ごあいさつをいただきたいと思ひます。

はじめに、足利市の大豆生田市長、よろしくお願ひいたします。

○大豆生田足利市長 皆様こんにちは。御紹介をいただきました足利市長の大豆生田実でございます。

本日は水戸市そして日田市と共に世界遺産登録に向けた第一歩をこうして踏み出せるということでございまして、大変足利市としても、いわゆる観光振興に向けた取組として、重きを置いておりますし、ありがたい機会を得たと心から感謝を申したいと思ひます。

足利学校につきましては、御存知のとおりでございますが、日本最古の大学ということでフランシスコ・ザビエルによって西洋に紹介をされたという経緯もございまして、足利市といたしまして、足利学校を広くアピールをして多くの観光客の方にお越しいただくべく取組を重ねているところでございます。

歴史を遡ると、創設者については、諸説ございますが、足利市のちょうど中心に鑿阿寺というお寺がございまして、足利氏、つまり足利尊氏につらなる足利氏の大元を創られた足利義兼という人物がおります。その足利義兼は、足利尊氏から遡ること6代祖先にあたる方でございますが、その方が創設したのではないかという節が有力であり、私もそうであろうと思っています。以来脈々と一時は3,000人もの学徒が学んだという足利学校でございまして、当然江戸時代においても日本の教育に大きく影響を及ぼしてきた経緯がございます。そうしたところを踏まえて、水戸市の弘道館、日田市の咸宜園と共に特に江戸時代、近世の教育遺産ということで横串をさして、世界遺産登録に向けた取組をしようということでございます。

ユネスコそのものの組織の由来も教育というものがベースにあって立ち上がった組織でございますので、日本における近世、近代教育遺産ということは大いにアピールできることであると思ひますし、最近でも山形弁の研究者のダニエル・カールという方がいらっしゃいますが、いろんな講演で日本の誇るべきところが三つあると、一つは治安がいい、そしてもう一つは電車の時刻が極めて正確、もう一つは、識字率が世界で一番高い国ということをおっしゃるわけです。その識字率の高さというのは、今にはじまったことではなくて、江戸時代での、3市をはじめとした各地域での教育への取組があったからこそという風に思ひますし、それがあったからこそ明治の時の日本の発展、そして、その後の日本の発展というものがあったという風にも思ひますので、そういうことも踏まえてですね、この3市をはじめとした当時の日本の各地の教育への取組というものが素晴しかったんだというアピールもしつつ、世界遺産登録に向けて着実に一步を進めていきたいと思っております。

どうぞ御列席の皆様のお力添えをいただき成就できればと思っております。

よろしくお願いを申し上げます、私の御挨拶とさせていただきます。

○司会 大豆生田市長、ありがとうございました。続きまして、日田市の原田市長、よろしくお願いたします。

○原田日田市長 皆さん、おはようございます。はじめにこの7月に九州北部大雨災害が発生いたしました、当日田市も大きな被害を受けた訳でございます。全国の皆さんから多大な御支援をいただきましたことを、この場を持ちまして感謝を申し上げたいと思ひます。本当にありがとうございました。

今日、設立協議会ということでお招きをいただきまして、これまでの経緯ということは高橋市長さん、大豆生田市長さんの方からお話しございましたので、割愛させていただきますが、この事業とそのものを去年引き継ぐ形で市長として訪ねたわけでございます。ただこの事業、取り組んでいく中で、3市の取組だけではなく、本当に今後の教育をしっかりと見直す必要があるということも強く感じておるところであります。

今後、この我々の活動そのものを深く進化していく中で、もっと勉強させていただきながら未来へつながるような正しい教育環境というものが我々世界に向けて発信できればなという風に感じているところであります。現在日田市の構成資産、咸宜園でございますが、昨日国史跡として広瀬淡窓の生家が指定を受けたということで市内もずいぶん盛り上がってきている状況でありますので、皆さんのお力と我々市民の後押しをいただきながらこの運動を進めていきたいという風に考えております。

最後になりますけれども、今日このような協議会の設立、そして、シンポジウムということでこのような会を催してくださった関係者の皆さん方に心より敬意を申しまして、簡単ではございますが、御挨拶とさせていただきます。

どうぞ今日はよろしくお願ひ致します。

○司会 原田市長、ありがとうございました。

続きまして、本日は、初めての会議でございますので、お手元に配布してございます名簿により、出席をいただきました皆様を御紹介させていただきます。

はじめに、構成市の教育長を御紹介させていただきます。水戸市教育委員会の本多 清峰教育長でございます。

足利市教育委員会の高木 弘志教育長でございます。

日田市教育委員会の合原 多賀雄教育長でございます。

続きまして、経済界から、水戸商工会議所の和田 祐之介会頭でございます。

足利商工会議所の早川 慶治郎会頭でございます。

日田商工会議所の高山 英彦会頭でございます。

続きまして、専門家の先生方でございます。水戸市の日高 健一郎世界遺産登録検討専門委員・座長でございます。

同じく、青木 美智男委員、五味 文彦委員でございます。

続きまして、足利市の入江 宏世界遺産検討会議メンバー・座長でございます。

同じく、橋本 昭彦委員、池田 雅則委員でございます。

続きまして、日田市の後藤 宗俊世界遺産登録検討委員会副会長でございます。

同じく、吾妻 重二委員でございます。

続きまして、県職員でございます。

茨城県教育庁の伊藤 哲文化課長でございます。

栃木県教育委員会事務局の水野 恵司文化財課長でございます。

大分県教育庁の佐藤 晃洋文化課参事でございます。

続きまして、事務局でございます。水戸市教育委員会事務局の会沢教育次長でございます。

同じく、中里参事兼文化課長、武田世界遺産推進室長、川口文化財係長、湯澤芸術文化係長でございます。

足利市教育委員会事務局の川田教育次長でございます。

同じく、橋本参事兼文化課長、石井文化財保護・世界遺産担当副主幹でございます。

日田市教育庁の高瀬世界遺産推進室長、溝田主事でございます。

申し遅れましたが、最後に私は、本日の司会を務めさせていただき、大越 真理子と申します。午後からの国際シンポジウムの司会も務めさせていただきます。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

それでは、これより議題に移らせていただきます。

議案第1号 教育遺産世界遺産登録推進協議会規約について、事務局から説明させていただきます。

議題1 教育遺産世界遺産登録推進協議会規約 について

○事務局 説明に先立ちまして、お手元に配布してございます資料の確認をさせていただきます。

はじめに、次第書がございまして、その次に出席者名簿、続いて座席配置、最後に、議案の冊子、以上の4点をお配りしてございます。よろしいでしょうか。

それでは、議案の冊子1ページの議案第1号 教育遺産 世界遺産登録 推進協議会規約について、御

説明させていただきます。内容につきましては、ページを返していただき、2ページを御覧いただきます。

第1条は設置の目的、第2条は所掌事項についての規定でございます。

第3条は組織でございます。協議会は、会長、副会長及び委員をもって組織することとし、詳細は、後程4ページで御説明させていただきます。

第4条は会長及び副会長、第5条は会議についての規定でございます。

第6条は専門部会についての規定ございまして、詳細は、後程5ページで御説明させていただきます。

第7条は幹事会、第8条は事務局についての規定でございます。

右側3頁に移りまして、第9条は財務についての規定ございまして、第3項の予算に係る部分は、議案第2号で御説明させていただき、第6項の会議で定めるものにつきましては、後程、6ページで御説明させていただきます。

第10条は監査、第11条は協議会が解散した場合の措置、そして、第12条は補則について規定してございまして、付則として、この規約は、本日、平成24年11月18日から施行するものとしてございます。

続きまして、4ページに移りまして、協議会の組織につきましては、会長には水戸市長、副会長には足利・日田の両市長、委員には、3市の教育長、学識経験者として、3市の商工会議所の会頭、専門家、県職員をもって充てることとしております。

5ページに移りまして、専門部会の組織につきましては、部会員として、水戸市から7名、足利市から5名、日田市から5名、合計17名の専門家の御参画をいただき、A、B、C 3つの専門部会の中で、学術的な調査・研究を進め、これまでの調査・研究内容に厚みを加え、熟度を高めてまいります。

6ページに移りまして、教育遺産 世界遺産登録 推進協議会の財務に関する規程でございますが、第1条で趣旨を規定してございます。

第2条は歳入歳出予算、第3条は予算の補正について規定してございます。

第4条は歳入歳出予算の款、項、目の区分を規定し、右側7ページの別表第1、別表第2のとおりでございます。

第5条は現金の保管、第6条は協議会出納員、第7条は予算の流用及び予備費の充当、第8条は収支及び支出の手続き、そして、第9条は補則について規定してございまして、付則として、この規程は、本日、平成24年11月18日から施行するものとしてございます。

説明は以上でございます。

○司会 只今、事務局から御説明させていただきました内容について、御質問等はございますか。ほかにはございませんか。それでは、議案第1号につきましては、原案どおりとすることとしてよろしいでしょうか。ありがとうございました。では、ここからの議事進行につきましては、規約第5条第1項の規定に基づき、会長の高橋水戸市長にお願いいたします。高橋会長、よろしくをお願いいたします。

議題2 平成24年度教育遺産世界遺産登録推進協議会事業計画・予算 について

高橋会長 それでは、議事に入ります。議案第2号 平成24年度教育遺産世界遺産登録推進協議会事業計画・予算について、事務局から説明をお願いします。

事務局 それでは、資料8ページをお開き願います。

議案第2号 平成24年度教育遺産 世界遺産登録推進協議会事業計画・予算について、御説明いたします。

はじめに、平成24年度の事業計画でございます。資料9ページをご覧ください。

まず、協議会の開催等といたしまして、協議会会議、専門部会、事務連絡会議を、それぞれ記載のとおり開催いたします。なお、協議会会議の年1回は、本日の開催、専門部会の年3回は、専門部会A・B・C各1回の開催でございます。

次に、調査研究事業といたしまして、(1)登録推進戦略、国内外の教育遺産の評価、資産の保存管理方策に関する調査研究、(2)日本イコモス国内委員会等との意見交換会を開催、(3)検討状況報告書の作成、(4)その他必要な事業を行います。

次に、普及啓発事業・要望活動といたしまして、(1)協議会ホームページの開設と運営、(2)文化庁への暫定リストへの追加補充・協議会運営への財政的な支援等要望活動、(3)その他必要な事業を行います。資料10ページをお開き願います。

続きまして、平成24年度予算について御説明いたします。

はじめに、歳入歳出予算の総額であります。第1条に記載のとおり、歳入歳出それぞれ93万円と定めます。その款項の区分及び当該区分ごとの金額は、「別表歳入歳出予算」のとおりでございます。

なお、この歳出予算に計上した予算額に過不足を生じた場合は、第2条に記載のとおり、款相互の金額は、必要に応じて流用することができることといたします。

また、この事項別明細であります。11ページを御覧願います。

まず、歳入の「負担金」92万9千円は、各市の負担金として、説明欄に記載のとおり、均等割と人口割により積算をしております。また、「諸収入」の1千円は、預金利子を計上したものでございます。

次に、歳出の「運営費」92万9千円は、説明欄に記載のとおり、協議会のホームページ関連業務の委託料40万円をはじめ、専門部会等の会場借上料15万2千円、その他消耗品費などを計上したものでございます。

その他、予備費を費目存置として1千円計上してあります。

以上で説明を終わります。

○高橋会長 只今の事務局の説明について、御質問や御意見等がありましたら、お願いいたします。ほかにはございませんか。それでは、今年度の協議会の事業計画と予算につきましては、原案どおりとすることとしてよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○高橋会長 ありがとうございます。

次に、その他ですが、何かございますか。

その他なければ、私から提案したい案件が一つございます。教育遺産の世界遺産登録に向けた取組に係る共同声明をこの場で作成したいと考えておりますが、いかがでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○高橋会長 御賛同をいただきありがとうございます。

それでは、事務局から案文を配布させていただきます。事務局の方から、共同声明を読み上げてください。

○事務局 教育遺産の世界遺産登録を目指す三市長共同声明。

先人が築き、遺した歴史、そして、歴史的資産は、住民の伝統や文化に浸透し、都市づくりにおいても重要な役割を果たしてきたところであり、新たな文化を創造していくうえでも、後世に引き継ぐべき重要な資源であります。

日本最大の藩校・弘道館（茨城県水戸市）、日本現存最古の学校・足利学校（栃木県足利市）、日本最大の私塾・咸宜（かんぎ）園（大分県日田市）は、地域の歴史資源であると同時に、日本の教育の形成過程と特質を顕著に示し、語り継いでいくうえで、特に重要な教育遺産であります。

近世日本は、当時の世界各国と比較して高い教育環境を整え、庶民も読み書きができるほど教育が普及しました。当時来日した外国人の多くはこれを高く評価し、明治維新後、日本が近代国家として急速な発展を遂げた大きな要因ともなりました。

資源に乏しい日本が今日の社会を築くことができたのも、「教育立国」と呼ばれるほど教育の振興に大きな力を傾け、未来への展望を切り拓いてきたことにほかなりません。

このような観点から、三市は、これまでの世界遺産には例のない「教育遺産」というテーマのもと、専門家の協力を得ながら、広域連携による取組を推進してきました。

本年は、世界遺産条約採択 40 周年という節目の年を迎えることから、これまでの三市の取組成果を礎とし、連携・協力体制を更に充実するとともに、一体的な事業の展開を図るため、本日、教育遺産世界遺産登録推進協議会を設立いたしました。

今後、三市の英知を一層結集し、国際的な視野から、教育遺産の価値や意義に関する十分な検証を進めるとともに、市民の皆様にも応援をいただきながら、郷土の誇るべき教育遺産の価値を国内外に発信し、かけがえのない人類共通の遺産として、未来に伝えていくためにも、世界遺産登録を目指してまいります。

平成 24 年 11 月 18 日

水戸市長 高橋 靖

足利市長 大豆生田 実

日田市長 原田 啓介

○高橋会長 只今の案文について、御質問や御意見等がありましたら、お願いいたします。ほかにはございませんか。

○五味委員 只今の案文中の「資源に乏しい日本が今日の社会を築くことができたのも、「教育立国」と呼ばれるほど教育の振興に大きな力を傾け、未来への展望を切り拓いてきたことにほかありません」の部分ですが、「未来への展望を切り拓いてきたからにほかありません」と表現を変えた方がよろしいかと思えます。また、「今後、三市の英知を一層結集し、国際的な視野から、教育遺産の価値や意義に関する十分な検証を進めるとともに、市民の皆様にも応援をいただきながら、郷土の誇るべき教育遺産の価値を国内外に発信し、」の部分ですが、「世界に誇るべき教育遺産の価値を国内外に発信し、」と表現を変えた方がよろしいかと思えます。

○高橋会長 五味先生，御意見ありがとうございました。それでは，五味先生からの修正案を採用することとしてよろしいでしょうか。

〔「異議なし」との声あり〕

○高橋会長 ありがとうございました。

以上で，第1回協議会を終わりにいたします。

本日は，御協力いただきまして，ありがとうございました。